

赤十字国際ニュース

2026 年 第 41 号 2026 年 7 月 16 日
(通巻 第 1828 号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-6674-1004

E-mail: kokusai@jrc.or.jp <https://www.jrc.or.jp/>

【速報 7】ベネズエラ地震：避難生活が続く被災地で、赤十字は支援を継続

現地時間 2026 年 6 月 24 日に発生したベネズエラ北中部の大規模地震から 3 週間が経過しました。これまでに少なくとも死者は 4,734 人、負傷者は 1 万 6,700 人以上に上り、約 1 万 7,900 人が住居を失いました（7 月 14 日時点、国連発表¹）。今なお多くの人びとが避難生活を余儀なくされており、安全な住居や医療、水・衛生サービスなどへの支援が引き続き必要とされています。

現地当局によると、現在 107 か所の避難所に 2 万人以上が避難しています。一方で、親戚宅や地域住民の受け入れ先などで生活している被災者も多く、被害の全体像については引き続き確認が進められています。



ベネズエラ赤十字社は、全国 41 支部、3,000 人のボランティアと 700 人の職員によるネットワークを生かし、被災地での支援活動を継続している。©VRC

■ここに寄り添う赤十字の活動

ベネズエラ赤十字社（以下、ベネズエラ赤）は、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）や赤十字国際委員会（ICRC）、各国赤十字社・赤新月社と連携しながら、被災地での支援を続けています。

発災直後は、骨折や外傷などに対する緊急医療が中心でした。しかし、時間の経過とともに、慢性疾患を抱える人への継続的な医療や、避難生活を送る人びとへの心理社会的支援（こころのケア）の重要性が高まっています。

家族や住まいを失った悲しみや将来への不安、長引く避難生活によるストレスは、

¹ [Situation Report No.21 Earthquake in Venezuela 14 July 2026 OCHA](#)

被災者の心身に大きな負担となります。ベネズエラ赤は心理社会的支援を通じて、被災された方の不安やストレスの軽減に取り組んでいます。

- 動画：[ベネズエラ赤による心理社会的支援](#)（1分）



ベネズエラ赤と現地に地震前から拠点を置くドイツ赤十字社は、カラカスの被災地でニーズ調査を実施するとともに、大人や子どもを対象とした心理社会的支援を行っている。©VRC

引き続き、医療支援も継続・拡大しています。最も大きな被害を受けたラ・グアイラ州では、地震発生直後から仮設病院や救護所を設置し、応急手当や診療、医療機関への搬送支援などを実施してきました。7月10日時点で、ベネズエラ赤による医療支援は4,317件に上ります。

こうした中、[速報6](#)でお伝えしたとおり、IFRCの調整のもと、スペイン赤十字社の診療所 ERU（緊急対応ユニット）が出動し、現地で支援活動を展開しています。ラ・グアイラ州のスタジアムに設置されたテント型の診療所では、7月12日に診療活動が本格化し、初日に90件の診療を実施しました。外傷や急性疾患への対応に加えて、慢性疾患を抱える人への継続的な医療も提供しています。



ラ・グアイラ州のスタジアムに設置された診療所©IFRC

また、スペイン赤十字社はベネズエラ赤と連携し、被害の大きかったラ・グアイラ州北部の沿岸部にあるサン・ホセ病院周辺でも診療支援を継続しています。同病院は地震の被害により使用できないため、隣接する公園に設置された仮設診療所で医療サービスを提供しており、1日あたり150～230件の診療を行っています。被災地の保健医療体制を補完しながら、増大する医療ニーズに対応しています。



サン・ホセ病院に隣接する仮設診療所©IFRC

そして、ベネズエラ赤は、被災者への救援物資の配付も進めています。これまでに1,132人、541家族が救援物資を受け取りました（7月9日時点）。支援は、高齢者、障害のある方、妊婦、先住民族など、災害時に特に支援を必要とする人びとも届けられています。ベネズエラ赤は、被災者一人ひとりの状況に寄り添いながら、医療支援と生活支援の両面から活動を続けています。



配付された物資には、衛生キット、家庭用清掃キット、給水・浄水キット、家庭用浄水フィルター、食器類などが含まれている。©VRC

■国際社会の継続的な支援が不可欠

地震発生から3週間以上が経過した現在も、多くの人びとが避難生活を続けています。被災者が安心して暮らしを再建していくためには、安全な住居の確保に加え、医療、水・衛生、心理社会的支援など、継続的な支援が欠かせません。

こうした中、国際赤十字はベネズエラ赤を中心に、緊急支援を継続するとともに、住居支援、保健医療、給水・衛生活動、心理社会的支援など、中長期的な生活再建を見据えた支援にも取り組んでいます。

IFRCは、今後2年間で30万人を支援するために、5,000万スイスフラン（約100億円）の緊急救援アピールを発出しており、日本赤十字社も資金援助を行っています。しかし、必要な支援を継続するための資金は依然として不足しており、国際社会からのさらなる支援が求められています。

被災した人びとが安心して暮らしを取り戻せるよう、私たち日本赤十字社を含め、国際赤十字は引き続き支援を続けていきます。

2026年ベネズエラ地震救援金

受付期間：令和8（2026）年6月30日（火）～令和8（2026）年9月30日（水）

使 途：国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）、赤十字国際委員会（ICRC）、ベネズエラ赤十字社、および日本赤十字社が行う、被災者への救援・復興支援活動および防災・減災活動などに充てられます。

[「2026年ベネズエラ地震救援金」へのご寄付はこちら](#)



メールマガジン『赤十字国際ニュース』

赤十字が世界中で行っている人道支援活動の最前線と、それを取りまく最新ニュースをメールでお届けします。

メールマガジンへの登録は、左の画像をクリックしていただくか、二次元コードを読み込んでいただいた先の登録フォームからお願いいたします。

